

## ○第13回近畿地方ダム等管理フォローアップ委員会 議事概要

開催日時：平成28年2月2日（火）10時～12時

開催場所：TKPガーデンシティ京都 「桜」

出席委員：6名

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1. 決定事項</li><li>2. 審議<ol style="list-style-type: none"><li>①天ヶ瀬ダム定期報告書(案)</li><li>②高山ダム定期報告書(案)</li></ol></li><li>3. 報告<br/>大滝ダムモニタリング部会の報告</li><li>4. その他</li></ol> |
|--|

### 1. 決定事項

- ・「天ヶ瀬ダム定期報告書（案）」、「高山ダム定期報告書（案）」は、フォローアップ委員会における意見を踏まえた修正を行い、委員長に最終確認することで了承された。

### 2. 審議の概要

#### ①天ヶ瀬ダム定期報告書(案)について

事務局より「天ヶ瀬ダム定期報告書(案)」について説明がなされた後、説明資料に対して質疑応答が行われた。主な意見は以下のとおり。

- ・H25年9月の台風18号洪水について、計画洪水量に匹敵する大洪水と報告があったが、計画通りであれば $160m^3/s$  下げることとなっている。今後に生かすためにも、出来なかった要因について説明頂きたい。

→天ヶ瀬ダムは一定の基準に基づいて予備放流を実施する。H25年9月の台風18号は、この基準に達しなかったため、予備放流を実施しなかった。しかし、結果的に大きな降雨、洪水になったという事象を踏まえ、基準に達しなくても、気象状況の監視を継続するものとし、必要であれば、予備放流を実施することとした。また、洪水初期における流入量予測の精度を向上させた。計画としている2次カットは、天ヶ瀬ダムに容量があり、下流淀川本川にある枚方地点で警戒水位を超えた場合に実施するとなっているが、この時は警戒水位に達しておらず、2次カットの条件に至っていなかった。（事務局 近畿地整）

- ・予備放流については、利水とのバランスを考えた高度化をどのようにすすめていくかが重要。雨や流出との関係なども含め、天ヶ瀬ダムの限られた容量を有効に使っていくた

め、今後も議論を進めてもらいたい。

・洪水の要因によって、低減率は違うが、貯水位は同程度で保たれている。低減率をどうするか判断基準はあるのか。

→流入量が  $840m^3$  に達しなくても、下流の状況、雨の降り方を考慮して、カットすることも考えながら、実施している。雨の予測は非常に難しいので、いつでも出来るものではないが、H24年8月の雨は、短時間で雨域が過ぎたので、このような判断が出来た。(事務局 近畿地整)

・順応的な管理を考えているということで、大変良いと思う。

・糞便性大腸菌群数のみが突出して上昇したケースが示されているが、このような現象は、この年以外や他のダムでも生じていたか？

→ご指摘の事例については、洪水前の8月7日に琵琶湖で糞便性大腸菌群数が急増しており、それが8月8日から10日の洪水により下流のダム湖に流下したものと推定している。ただし、琵琶湖で糞便性大腸菌群数が急増した原因については不明。(事務局 近畿地整)

・大腸菌が山から来た可能性もある。人為由来とは限らないため、今後注目してほしい。

→了解した。(事務局 近畿地整)

・砂州は生き物にとっては意味がある。砂州の管理の考え方について説明してほしい。

→砂州についてはダムだけでなく河川管理全体の話となる。治水・利水・環境の三つの評価軸により、砂州ごとに総合的に評価し、管理方法を考えている。(事務局 近畿地整)

・個々の砂州の状況を定期的にモニタリングしているということか。

→河川水辺の国勢調査や測量により状況を適宜モニタリングしている。(事務局 近畿地整)

・宇治川のそれぞれの砂州を治水・利水・環境の観点から評価し、今後とも適切に管理してもらいたい。

・外来種のカワヒバリガイの対策は考えているのか？

→現時点では特に対策は実施していないが、注視して調査を続けて行く。(事務局 近畿地整)

・カワヒバリガイの生息は粗粒化と関連しているということだが、粗粒化した環境を改善することも考えているのか？

→そういったことも含め考えていきたい。(事務局 近畿地整)

- ・上流ではウツセミカジカ、スジシマドジョウ大型種といった重要な種が確認されているのでグラフにそれらも追加すること。スジシマドジョウ大型種、メダカ南日本集団などについては、最近種名が変更されているので確認すること。また、チャンネルキャットフィッシュが確認されているが、今後の動向には注視すること。

→了解した。(事務局 近畿地整)

## ②高山ダム定期報告書(案)について

事務局より「高山ダム定期報告書(案)」について説明がなされた後、説明資料に対して質疑応答が行われた。主な意見は以下のとおり。

- ・流入河川(名張川本川)の流入栄養塩負荷を減らすことは、現実的に厳しいので、貯水池内で出来る範囲で水質保全対策を行うという認識か。

→ダム管理者としては、基本的に、貯水池内で(富栄養化)対策を行うことを考えている。

(事務局 水資源機構)

→高山ダムにおける(富栄養化)対策は、流入してきたものを貯水池内で対策を行う、流域からの流入栄養塩を減らす、2通りの方法がある。後者は、流域の市街地等からの流入負荷が多く、ダム管理者だけでは実施することができない。浄化槽の整備や下水道普及率の増加、下水道の接続率の増加を自治体と協同して実施していくこととなる。(事務局 近畿地整)

- ・開放水面の減少は、水位変動域が調査範囲の対象となったことによるものか。

→平成18年度のマニュアルの改訂に伴い、平成22年度に上流域(水位変動域)に調査範囲が広がったため、開放水面の割合が変化している。(事務局 水資源機構)

- ・そのような調査を実施した場合、ダム周辺とダムとの関係が不明瞭になるのではないか。

→百分率での表記ではなく、haに修正する。(事務局 近畿地整)

- ・今まで確認されていなかった外来種群落(オオカナダモ群落及びアレチウリ群落)進入している。当群落に対しては、初期対策が重要であり、群落が広がった後は対策が困難になる。オオカナダモ群落及びアレチウリ群落に対して、何か対策はあるのか。

→アレチウリ群落については、調査範囲が広がった上流域に分布している。抜き取りによる対策を検討している。(事務局 水資源機構)

- ・監視という言葉は、モニタリングの結果に応じて、対応策も検討していくというニュアンスで記載しているのか。

→そのような意味で記載している。(事務局 水資源機構)

- ・外来種群落（オオカナダモ群落及びアレチウリ群落等）への対応をする場合、群落が分布している場所により難易度が異なる。対応出来そうなのか。

→対応することが出来ると考えている。(事務局 水資源機構)

### 3. 報告

事務局より「第3回大滝ダムモニタリング部会」について報告を行った。

### 4. その他

- ・次回の委員会においては、日吉ダム、青蓮寺ダムの定期報告書（案）の審議を行う予定。

以 上